

① はまなか

議会だより

NO 132

令和2年4月15日発行



3月定例会

予 算 議	ふるさと納税の実績と今後の取り組みは	4P~9P
	委員会レポート (総務経済常任委員会 広報公聴常任委員会)	10P~11P
一 般 問	7人の議員が町政を問う	13P~19P
	学遊志 (川村 兵吾 さん)	20P

霧多布保育所の卒園式が3月30日に行われました。新型コロナウイルスの影響で例年とは違った形でしたが、卒園を迎え一回り大きく成長した子どもたちの姿がありました。

保育所で学んだことを胸に小学校でも元気に通ってください。

表紙の写真

生産性の向上を図る

ウニ種苗センター建設に着手

施設備品購入など事業費8億1210万円を計上

3月
定例会
10日～13日

令和2年第1回定例会
が3月10日から、4日間
開かれました。町長から
町政執行方針、教育長か
ら教育行政執行方針が示
され予算審議など活発な
議論が展開されました。
今定例会には、令和元
年度の補正予算をはじめ、
令和2年度当初予算およ
び条例の改正など24議案
が上程され、いずれも原
案どおり可決しました。
また、一般質問は7人
の議員が登壇しました。

「まちづくり」の基本施策を推進

- 地域を支える地場産業の振興
- 災害に強いまちづくり
- 若い世代への子育て支援の充実

〈主な施策〉

一、ウニ種苗センター建設工事

一、新庁舎等建設工事（年内完成）

【建築主体工事

地中熱利用設備工事など】

一、避難施設等建設工事（継続）

【避難道路建設工事

防災広場造成工事など】

一、霧多布G団地改修工事

一、新たな公共バス路線網の整備

（10月から運行）

一、後継者就業交付金事業（継続）



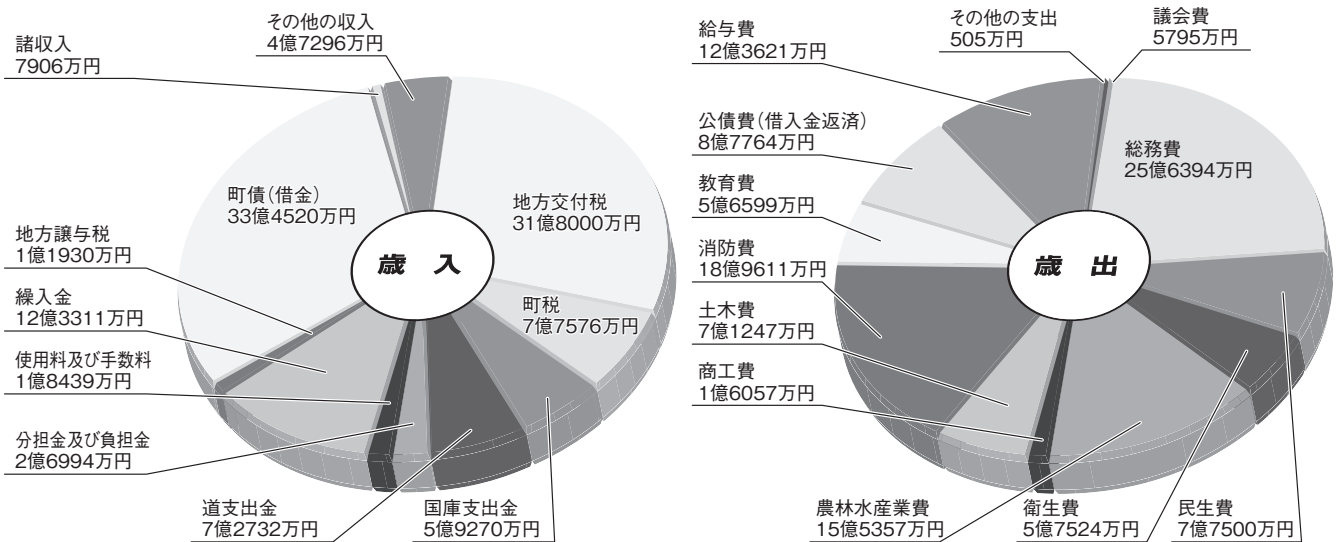
ウニ種苗センター外観イメージ図

予算の概要

令和2年度の一般会計予算

総額109億7974万円に

令和2年度一般会計内訳



令和2年度各会計の当初予算

会計別	歳入歳出予算額		増減率 (%)	一般会計からの 繰出金			
	令和2年度	平成31年度					
一般会計	109億7974万円	85億5803万円	28.3				
特別会計	国民健康保険	11億6882万円	11億2171万円	4.2	4447万円 ←		
	後期高齢者医療	7864万円	7470万円	5.3	2202万円 ←		
	介護保険	4億5595万円	4億6118万円	△ 1.1	7249万円 ←		
	浜中診療所	2億6486万円	2億6341万円	0.6	1億4244万円 ←		
	下水道事業	4億3486万円	3億7823万円	15.0	2億8083万円 ←		
合計	133億8287万円	108億5726万円	23.3	5億6225万円 ←			
企業会計 (企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。)							
	収入	支出	収入	支出	増減率 (%)	一般会計からの 補助金	
水道事業							
	収益的	1億9625万円	1億9625万円	1億8937万円	1億8937万円	3.6	5431万円 ←
	資本的	1億990万円	1億5861万円	3744万円	8650万円	83.3	

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額4871万円は、過年度分損益勘定留保資金などで補てんする。

予算審議から

ふるさと納税の実績と 今後の取り組みは

問 令和元年度の納税額と積立金残高は。2年度3億円の税収を見込んでいますが、返礼品など経費の割合と人気の返礼品は。

また、ふるさと納税の主な用途は。

納税窓口となるサイトを増やしたことで税収が伸びているが、他町村の実績とは大きな開きがある。リピーター確保のために納税者へ主な活用内容を示すべきである。

また、返礼品目を増やすため町内事業所への支援制度を創るなど、自主財源増に向けた取り組みが必要では。

答 元年度末での税収額は、3億6千万円超の見込み。平成30年度の残高を含め現在の基金残高は3億9514万円である。令和2年度の各事業への充当額3億5978万円を取り崩

し、新たに税収3億円を見込んでいる。ふるさと納税に係る経費は、返礼品9千万円・4サイトの委託料5046万円・送料2886万円などで、税収額の約56割となっている。

人気の品目は、アイスクリームが約5割を占め、ウニ・チーズ・昆布製品などとなっている。

今年度の用途は、産業振興に約1億7400万円、教育・医療に約9740万円、環境・景観に約3712万円、その他約5千数百万円で総額3億5978万円となっている。

納税者へのお礼は、HPに主な活用事業とお礼文を掲載して取り組みたい。

現在町では、地域活性化促進奨励補助（事業費の50%で上限200万円）により、特産品や加工品開発への支援をしている。新たな製品開発が結果として、返

礼品目の増加となる。ふるさと納税は、貴重な自主財源であり税収増に向け取り組んで行く。



ふるさと納税で設置された複合遊具（茶内ふれあい広場）

ファイターズ 応援大使事業の内容は

問 上沢直之選手・公文克彦選手は、2020年の浜中町応援大使となった。町の活性化に資するための予算措置であるが詳細は。また、応援ツアーでの町有バスの活用は。

* 応援大使トークショー司会者謝金10万円
* 応援バスツアーに係る営業バス代30万円
* 札幌ドームで行われる物産展に係る旅費34万円とバス使用料15万円
* その他各事業での消耗品・送料・食糧費などがある。

答 応援大使事業費の総額は約181万円で主な内容は
* 野球教室講師謝金20万円
* イベント事業へのファイターズガール招へい謝金28万円

なお、応援バスツアーでの町有バス活用は、旅行業法に抵触するので使用できない。



公文克彦選手

上沢直之選手

旧勤労青少年ホームの屋上防水工事とは

問 旧勤労青少年ホーム屋上防水補修は、昨年6月補正172万円を実施されている。今回550万円で行う防水工事は、前回の補修箇所を除いた部分か。

施設の使用目的は、モンキー・パンチ先生およびルパン三世のコレクション展示であるが、施設の老朽化や釧路沖地震時の損壊程度から耐震性にも不安がある。今後の維持管理費を考えると、新庁舎移転後にできる総合文化センターの空きスペースを活用すべきでは。

この施設は、昭和59年築で新耐震基準を満たしていることから耐震診断は実施していない。ただ、築35年以上経過しており、総合文化センターの活用も含め再度関係団体と協議検討したい。

生物多様性保全の内容は

問 新たな科目で185万円の予算計上の内容は。

取り組む事の重要性から生態系の維持、森林の持つ保水力などの公益的機能の向上を図る目的で、今回は広葉樹（ミズナラ、カシワ、シラカバなど）を中心に植える予定。

答 令和元年度より全国の自治体に交付された森林環境譲与税を活用したもので、主に森林整備、人材育成や木材の普及促進に向けた活動など、多岐にわたって認められている中から今回計上したものの。

本町において森林の荒廃が一定程度認められる状況の中、生物多様性の保全に
植栽後は、エゾシカなどによる被害を防ぐ措置として電気柵の設置も講じたい。

答 6月補正では、雨漏り対策として展示場であるア



簿記検定取得を目指す

生徒スキルアップ補助の拡充を

問 霧多布高校の生徒スキルアップ補助金116万円の検定項目と資格取得者数は。

また、小型船舶操縦士資格取得をカリキュラムに加える考えは。

答 現在の検定項目は、実用英語技能・実用数学技能・日本語能力・電卓計算能力・簿記・日本ワープロ・情報処理技能・文章デザイン・プレゼンテーション作成・パソコンスピード認定・社会人常識マナー・危険物取扱者丙種・書写技能（毛筆と硬筆）の14検定である。

令和元年度の資格検定受験者は186人で合格者は100人である。

また、小型船舶操縦士資格取得は、現在、漁協を通じて資格を取得しているが全額自己負担であることから今後は、カリキュラムに加えることを検討する。

「ゆうゆ」の運営状況は

問 指定管理者制度を導入して1年半になるが、利用者の入込数など運営状況は。

毎日のベントデーとして集客を図っているが、新たな企画などは。また、管理運営負担金4193万円の内訳は。

期の150%であり、年間7万人程度が見込まれる。企画などは指定管理者に委ねているが、町外観光客に浜中の食材をPRできるように、レストランで地場産食材（ホエー豚・カキ・アサリなど）を使ったメニューの開発を要請している。負担金の内訳は、管理運営費としての3233万円のほか風車の電力供給がないことから、電気料の9割分として942万円と温泉成分の分析調査費18万円である。

答 入館者数は2月末現在で6万8千人超で、前年同



レストランのメニュー

新川河口導流堤工事の 進捗状況は

問 現在、左岸の工事が進められているが、右岸はまだ手が付けられていない。今後の予定は。

答 今回の予算で左岸の改修工事は終わる。当初は4年で両岸の整備予定であったが、仮設道路の整備など



整備が待たれる右岸（新川河口導流堤）

に費用が嵩み整備が進んでいない状況にある。残る右岸も機械を搬入する道路整備も必要になる。

問 現在の予算規模からすると今後5年程度を要するが、利用者も多いことから少しでも工期の短縮に努めたい。

老人クラブの現状は

問 老人クラブの対象年齢は。加入している人数と団体数は。
なお、現状を見ると老人クラブの再構築が必要と思うが。

答 65歳以上が道の補助対象となっている。会員数は436人で、単位クラブ数は14団体である。

現状は、60歳代から90歳代と年代の差が大きいので、どのような形での支援ができるのか関係団体と検討したい。

保育所のエアコン設置は

問 常設保育所116万円とへき地保育所265万円で実施するエアコン設置の内容は。
また、一時預かり保育の状況は。

答 置である。一時預かり保育の令和元年度実績は、262件。申込みは、原則前日の午後3時までであるが、突発的に利用が必要な場合も柔軟に対応している。

問 霧多布保育所乳児室とへき地保育所3施設への設

港湾・漁港への 仮設トイレの設置は

問 仮設トイレ借り上げ料30万円の内容は。
また、釣り人のマナーが悪く苦情が多く寄せられているので、何らかの規制や看板の設置はできないか。

答 衛生な状態になるため、霧多布港東防波堤と藻散布の漁港に8月から9月の2か月間仮設トイレを設置する。立ち入り規制は難しいが、地震・津波などの懸念もあり、看板の設置など釣り人への周知を図りたい。

答 釣り人のマナーが悪いことにより周辺が非常に不

公営住宅の整備計画は

問 霧多布G団地の工事請負費2億4千万円と移転補償費475万円の内容は。

答 霧多布G団地の工事請負費2億4千万円と移転補償費475万円の内容は。

公営住宅新築工事設計業



今年度ユニバーサルデザイン化されるG団地 (57-2)

答 G団地は、長寿命計画に基づき、屋根外壁改修と内装はユニバーサルデザインを取り入れた改修をする。工期は6～12月を予定。移転補償費は、2棟26戸分で計上。

建物解体工事費は、茶内団地6棟で3900万円。浜中A団地は4棟分260

0万円で、現時点では跡地利用の計画はない。

新築工事設計費は、茶内団地1棟8戸2階建て4棟を解体跡地に予定している。

「ユニバーサルデザイン」とは、障がいの有無に係わらずすべての人が使いやすいようにデザインすること。

母子像前の看板設置事業とは

問 看板設置業務委託料32万円は、潮見橋の近くに建立されている母子像前の説明案内版設置費用である

が、この像は、津波で亡くなった母とお子さんであり、見ていると寂しさが募る。そっとして置くべきとの思いもあるが、説明案内版の文章は、チリ沖地震津波によって被災し、亡くなられたご遺族に配慮した文面にすべきと思うが。

答 母子像は、昭和35年のチリ沖地震津波の災害復興祈念碑である。

津波襲来から今年で60年の節目の年となることから説明案内版を設置する。

なお、具体的な文言は、災害からの復興や被害の惨状などの説明になると思われるが、被災者への配慮も十分考え、決めたいと思っている。

また、国土地理院は、地図の中に自然災害伝承碑という地図記号を昨年度から新たに設けたので、この母子像もこの自然災害伝承に位置づけられ、地図記号に明示される予定である。

校舎等補修工事の内容は

問 霧多布中学校教員住宅改修工事1千万円、散布中学校教員住宅改修工事70万円、茶内中学校体育館LED化工事468万円の内容は。

答 霧中教員住宅は、昭和54年築で屋根の葺替え・フローリング・クロスの張り替え・風呂の改修。

散布中教員住宅は、平成7年築でクロス、張り替え・畳の取り替え・風呂の改修をする。

また、茶中体育館は、水銀ランプの生産が中止になることから、LED化を図る。今後、各学校の体育館も計画的に進めていく。

スポーツ少年団への支援は

問 スポーツ少年団活動支援バス借上料200万円の
内容と事故保険の加入は。

答 これまでは、管内大会
出場のために保護者の車で
送迎していた。事故の懸念



少年野球大会

や保護者の負担軽減を図るためバスでの送迎をする。バス借上料は、管内大会への営業バス1回10万円の10回分、スクールバス1回5

万円の20回分で、対象は野球少年団・スケート少年団などを予定。

また、事故保険はバス事業者が加入している。

町道補修の現状は

問 今年度も4千万円で8路線を維持補修するが、道路は住民生活に密接に関係することから増額する考えは。

答 各自治会からの路線補修の要望をリスト化し、優先順位をつけて補修している。現在は28カ所の補修要望があり、そのうち今年度は8カ所の道路補修を行う。町道の維持補修工事は、全て一般財源による。今後は、入札執行残などを活用し追加発注を考える。

地域経済活性化を図る

補助の内容は

問 地域経済活性化促進事業補助700万円の内容は。

全国展開支援事業90万円は、日本ウォーキング協会

答 プレミアム商品券の前年実績は、3500セットのうち45セットが売れ残った。今年度は610万円です。2800セットを販売予定。

によるコース整備や看板設置などで、総事業費550万円のうち国の補助を除く商工会負担分180万円の2分の1を助成するもの。

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
新庁舎等建設工事（建築主体工事ほか）	16億558万円
新庁舎用備品購入	8928万円
中山間地域等直接支払交付金（浜中・別寒辺牛地区ほか2集落）	2億365万円
避難施設等建設工事（避難道路建設工事ほか）	15億3145万円
校舎等補修工事（霧小暖房改修・浜小トイレ改修ほか）	8848万円

委員会レポート

○町政状況の調査

◆調査の概要

防災機能を備えた役場庁舎建設や茶内保育所の建設など大型事業の実施により、本町の財政がどのような現状にあるかを基金残高、

交付税の推移、地方債残高、財政力指数や実質公債費比率などにより検証し、今後とも安定した財政運営が可能となるかを探る。

◆調査意見

本町の財政状況は、大型事業の実施により、財政運営が心配されていたところであるが普通交付税の推移や財政力指数を始めとする各指標および実質公債費比率も安定しており、健全財政維持に努めていると評価される。若干気掛かりな指数は、経常収支比率が75%を超えており、財政構造の弾力性を失いつつあることに留意が必要である。財政関連基金の支消を最小限に抑えるとともに、備荒資金組合への積み立てにより、大規模災害など不測の事態に対応できる財政基盤の確立が求められる。

○丸山散布避難道整備計画の現地踏査

◆調査の概要

丸山散布避難道整備計画は、これまで基本調査設計後に3度見直された経緯と現計画案について、防災対策室に資料の提示を求め、担当室長から概要説明を受けたルートおよび現計画(案)の現地踏査を実施した。

◆調査意見

現計画は、湖沼公園からの避難ルートであり、中腹(標高30m)に新たな避難場所2500㎡(駐車スペース140台1750㎡)を造る計画である。建設事業費も約1億5千万円程度に圧縮でき、単年度で施工可能との説明であり、現地踏査の結果、現計画は最良のルートであり、実現可能と判断。

車道に沿って階段整備の

必要性と避難場所からの雨水が火散布沼養殖ウニに及ぼす不安などの課題もあるが地域住民も現計画に理解と期待感を持っており、早期に着手すべき事案である。

○商工業の振興対策調査

◆調査の概要

商工業の現状と課題を精査・検証し、課題解決に向けた地域振興策などを模索し、地域活性化を図ることを目的に商工会役員との意見交換会を開催した。

◆調査意見

商工会役員との意見交換会は初めての取り組みであり、調査目的を意識した事業の選択に至らなかつたが、商工会が抱える課題は行政課題と共通することから後継者問題、域内消費の推奨、高速

通信網・光回線整備、観光協会の民営化や地域おこし協力隊の有効活用、観光客に向けての対応強化など、活発な意見交換により課題が浮き彫りになった。

今回の意見交換会は、商工業の振興策を探るには多くの課題を把握するにとどまった感があり、今後は膨大なテーマを絞った意見交換会とすることを確認した。

3つの所管事務調査を実施

町の財政状況の調査、丸山散布避難道整備計画の現地踏査、商工業の振興対策調査を実施し、3月定例会で報告。

総務
経済
常任委員会



湖沼公園からの避難ルート踏査

広報公聴 常任委員会

積極的かつ主体的な 広報公聴活動を目指す

町民参加による開かれた議会を推進
するため十勝管内浦幌町議会を視察し、
3月定例会で報告

◆調査の概要

○公聴活動状況および議会 モニター制度について

今期より広報公聴常任委員
会となったことを受け、
広報活動の充実を図ること
はもとより公聴活動への取
り組み方を協議検討してき
た。

公聴活動は、議会側から
呼びかける議会報告会・議
会懇談会などを実施してい
る町村議会は相当数ある

が、早くから議会モニター
制度を導入し、町民と議会
を身近にするための取り組
みをしている浦幌町議会の
視察研修を行い、その導入
過程・効果および公聴活動
状況について調査を行い、
町民との対話や情報の共有
の手法、議会モニター制度
の有用性を探る。

○浦幌町議会

浦幌町は、人口約4千7
00人で産業は農林水産業
の一次産業を主体に商工観
光業からなっている。

浦幌町議会は、議員定数
11人で76歳から25歳と幅広
い年代構成で職業も農林水
産業者・会社社員・司法書士・
町職員OBなど様々な分野
の人材となっている。

議会活動は先進的な取り
組みがなされており、議員
のなり手不足問題に真摯に
向き合い様々な取り組みを
実施していることが評価さ
れ「改革先進議会表彰」を
受けている。

議会モニター制度は、平
成25年4月から実施してい
る。モニター定数は10人以
内で1期目5人、2期目6

人と低調であったが、議員
個々の声掛けやモニター員
からの知人・友人への働きか
け、モニター制度の浸透も
あり、3期目8人、4期目
(平成31年4月)で10人(応
募数11人)となっている。

◆調査意見

議会の運営に際し、町民
からの要望、提言、その他
の意見を広く聴取し、町民
参加による開かれた議会将
推進するためには、公聴活
動が極めて重要である。

浦幌町で行われている各
種事業は、議会報告などの
広報活動に加え、議会モニ
ター制度を始めとする公聴
活動を積極的にを行い、町民
との対話や情報の共有を図
り、議会の活性化に大きな
成果を上げている。

視察した浦幌町議会で特
筆すべき事柄は、定数を削
減したにも拘らず翌27年の
統一地方選で1人の定数割
れとなったが、4年後の平

成31年の
地方選で
は5人の
新人が立
候補し選
挙戦の結
果、20代
1人・30
代2人・
40代1人
の現役世
代4人が
当選され
たことで
ある。こ
れは、地
道な広報
公聴活動
を継続し
てきた成
果の一端
であると
考える。

本委員
会は、町
民との対
話を積極
的に行い
意見を広く聴取しながら、
議会および議員の活動内容
を知ってもらう積極的かつ
主体的な広報公聴活動が必



モニター制度取り組みについて活発な意見交換がされた

要不可欠であり、その手段
として「議会モニター制度」
の導入も検討すべきとの結
論に至った。

**その他の予算関連
審議(抽出)**

- *不良空家等除却補助の実績は
- *結婚・出産祝金の実績は
- *戸籍電算化業務の内容は
- *役場庁舎機能移転支援業務の内容は
- *地域公共交通活性化協議会今後の予定は
- *放課後児童クラブ改修工事の内容は
- *リサイクル活動奨励交付金の実績は
- *一般廃棄物処理基本計画策定業務の内容は
- *農用地集団化事業の今後
- *津波防災ステーション移転工事の内容は
- *国直轄港湾整備事業今後の予定は
- *霧高に設置する地震解錠ボックスの内容は
- *津波防災避難道路調査基本設計業務の内容は
- *防災用コンテナ購入の内容は
- *ICT教育の推進方法は

補正予算を議決

一般会計では財政調整基金積立金5044万円、除雪業務委託料2000万円、霧多布・茶内保育所の3歳未満児およびへき地保育所全児童の保護者を対象に給食費相当額を助成する保育所等給食費助成金193万円の追加。新庁舎等建設工事の確定により2059万円を減額するなど年度末における事業費の確定などによる減額で、予算総額を94億905万円とした。

なお、へき地保育所の給食提供は、令和3年4月実施を目標に取り組む。



霧多布保育所での給食風景

◎特別会計

- ・国民健康保険特別会計
- ・後期高齢者医療特別会計
- ・介護保険特別会計

◎特別会計

- ・浜中診療所特別会計
- ・下水道事業特別会計

◎企業会計

- ・水道事業会計

特別会計、企業会計とも令和元年度実績見込みに基づき補正。

第1回臨時会(1月24日開催)

**第6期浜中町まちづくり
総合計画基本構想を議決**

町の総合的かつ計画的な行政運営の指針であり、町民にまちづくりの長期的な展望を示すものとして、これまで総合計画を策定してきたが、現計画が令和元年度で計画期間終了となることから、令和2年度から令和11年度までの10年間の計画期間とする「第6期浜中町まちづくり総合計画」を策定した。

のふるさとを未来へ 自然とともに生きる 豊かな大地と海のまち はまなか」と定め、10年後の将来を見据え、地域と行政が一体となり、かけがえない自然環境を大切に、地域特性を生かした産業振興を図りながら、郷土に対する愛着と誇りを醸成し町民一人ひとりの笑顔が輝くまちを目指すことを基本構想としている。

テーマを「笑顔輝く共創

**教育長の
任命に同意**

教育長の任命について無記名投票の結果、全員賛成で佐藤健二氏を最適任と認め、任命することに同意しました。



佐藤 健二氏(霧多布)

一般質問

田甫 哲朗 議員



	入学数	進学率
H27年	28人	54.9%
H28年	32人	47.1%
H29年	31人	50.0%
H30年	36人	58.1%
R1年	21人	42.0%
R2年	23人	35.9%

田甫 霧多布高等学校の生徒数が減少傾向にある。近年の入学数と町内中学校からの進学率は。

教育長 左表の通り。

問

霧高生を対象に
公営塾の開設を

答

現行の支援策を
充実強化して

田甫 生徒数の減少はどこの地域も同様であり、今後各高校において生徒確保に向けた取り組みが活発になることが予想される。

霧高では、浜中学の継続や給食の実施・各種検定料の補助など特色ある施策を実施しており、その成果は一定程度見受けられるが、町内中学生の半数以上が町外の高校へ進学しているのが現状である。

経済的支援は充実しているが、生徒個々に応じた進路支援策を充実することが霧高の魅力アップにつながるものと考え、「公営塾」の開設を提案したい。

教育長 中学校の生徒・保護者が高校を選ぶにあたっては、学業と部活動さらには進路指導の体制を総合的に考えて判断している。

現在霧高では、教員の対応により3年時に大学受験・看護専門学校・公務員を目指す生徒を対象に週3回ほど個別支援を実施している。また、1年時より大進学・看護系の学校を目指す生徒には夏季休暇など

を利用して支援している。現在高校で取り組んでいる内容の充実と周知徹底を図り、霧高生徒数の増加に努めたい。

※公営塾とは民間塾との提携により生徒の目的に合わせた無料の個別支援策で、近隣では弟子屈町が導入。

問 中学生と乳幼児のふれあい学習を

答 家庭科学習の単元で

田甫 育児放棄・児童虐待などの将来的防止策として乳幼児との「ふれあい学習」を実施すべきと考えるが。

また、町内での事業数は。

教育長 中学校では、家庭科学習の中で3年時に保育所を訪問し児童とのふれあい体験を実施



平成31年度入学式

している。乳幼児と接し愛情を培うことは大切であり、さらなる充実を図って行きたい。

高校では、平成18年までは校内で実施していた。現在は行われていないが今後検討したい。

また町内の事業数は28年度2件・29年度4件・30年度5件・令和元年度2月末で3件の相談対応があった。いずれも一時保護などの事業までは至っていない。

一般質問

川村 義春 議員



問 「浜中学」を活かす施策を

答 霧高生の提案を 施策に活かしたい

川村 町立霧多布高等学校では、平成25年度から「浜中学」を取り入れ7年目を迎えるがその目的は。また、最終学年で報告されるまちづくりの提案、本年度は10項目の提言がされた。その提案を行政施策に活かす「夢を形にする」として「これからの浜中は面白くなるぞ」との思いを生徒に持つてもらうことも後

継者づくりに繋がっていくと思うが。

教育長 浜中学は、3年間の地域学習を通して課題解決能力や発信力を身に付けることが目的。1学年は、郷土の環境や産業など町の魅力を理解する知識を習得する。2学年は、町の課題を探索し解決方法を探索する。3学年は、情報発信能力を習得。町の魅力や課題解決策を発信、地域研究の成果を毎年10月に報告会を開いている。

町長 報告会では、まちづくりの課題や思いを知ることができると。本町の産業に興味を持ち理解を深め、習得した知識を基に提案された案を活かすことは後継者づくり（進学・就職した生徒が戻れること）に繋がるので、次代を担う霧高生の実現可能な提案は行政施策に活かしたい。

川村 浜中学は、浜中を知ると。調べる・広める、卒業後に課題解決能力や情報発信（プレゼン）能力を身につけた人材を育てるという大きな計画である。

これは、町立霧多布高校の生命線・基本と思う。生徒

徒募集のPRも含め、一つの拠り所として推進を。

教育長 生徒のやる気と可能性を引き出し、生涯にわたり必要な学力の習得と地域社会に貢献する人材育成を図るため、浜中学の推進に努めたい。

問 人口減少対策の
具体的施策は

答 提案された具体案の
実現をめざす

養殖ウニの地理的表示保護制度の取得やふるさと納税事業者への補助制度の創設。婚活事業。ルパン活用

問 避難タワーなどの
ハード施設整備は

答 千島海溝沿いの巨大
地震データ公表後に

国の津波高を見て、道が浸水高を決めることになるが、早急に総合計画の実施計画に乗る対策を考える。

問 指定緊急避難場所の
照明設備は万全か

答 渡散布などの
高台に対応したい

災害時の不安解消に向け7カ所に設置を検討する。



プレゼン能力が発揮された「浜中学」報告会

一般質問

加藤 弘二 議員



問 変形労働時間制の導入は

答 選択肢の一つで 今後の検討となる

加藤 現在の夏・冬休みの勤務対応の実際は。

教育長 夏・冬休みは、児童生徒にとっての休みであり、教職員は勤務日となっている。

加藤 以前は、夏・冬休みは自宅研修日であり、登校は意味のないことであった。

教育長 最近の夏・冬休みの使い方は、子どもが学校で学習の機会もあり、また、通知表の評定や教材研究で以前の数倍の仕事がある。

加藤 私の、教職員時代は「24時間勤務」と自覚するようになった。教師の日常は、児童生徒、父母、同僚の教師との人間関係で苦勞が多かった。漁村では生徒の生活を知ることが基本。昆布漁と生徒の日常。陸まわりボランティアは大切。普段できない自分の趣味・登山やスキーで心身を鍛える。全国の民間研究会に参加し、全国の生徒指導の実践交流に学んだ。

生徒も教師も自分磨きに大切なのが長期休業と思っただが。

教育長 選択肢の一つである。

時間割

り、1年をかけて教育関係者の声もよく聞いて文科省案を判断したい。

問 学校統廃合による影響は

答 人員および 交付金減につながる

加藤 町内の中学校4校を1校にする意見も聞くが財政面ではどうなのか。

教育長 現在の4校の中学

校の先生たちの人数は50人。給与の総額は、年額3億2309万円、統合して1校になれば、教師の数は19名。給与総額は1億2308万円で、差額は約2億円減になる。学校配当運営費は、4校の場合7401万円、1校になれば3055万円となり、4346万円の減となる。

加藤 政府・文科省は臨時国会でこの制度を突然提案してきたがどの様な制度か。

教育長 公立の義務制の学校で、労働時間を繁忙期(1学期、2学期、3学期)の勤務時間7時間45分を越える超勤を長期休業中にカットする制度。令和2年度は、内容などを検討し、令和3年4月1日から適用される。

一般質問

秋森 新二 議員



問

介護福祉士の 定着化支援策は

答

さらなる処遇改善策を 検討したい

秋森 厚生労働省の推計では団塊の世代全員が75歳以上となる2025年には、約34万人の介護職が不足すると見込んでいる。

北海道内の介護職員9万9315人の内、1年間で1万5150人が離職しており、その半数の7258人が介護福祉士とされている。

浜中町でも介護職の不足

が続いているが、終の棲家ともいわれる特別養護老人ホーム「ハイツ野いちご」の介護職員の定着化を図るため、より一層の処遇改善を講ずるべきでは。

・「ハイツ野いちご」の介護職員数と資格保有状況は。

・現在行っている処遇改善の内容と効果は。

・介護福祉士資格の受験料その他費用の助成は。

・シングルマザーの積極的な雇用は。

な雇用は。

町長 「ハイツ野いちご」には、介護福祉士22人のほか、資格取得予定のヘルパー2人、計24人が介護に従事している。

町は処遇改善策として、平成30年度から専門学校などの授業料を支援し、3年勤務後の返済を免除する「介護福祉士就学資金貸付事業（上限120万円）」を実施しているが利用実績はない。

また、介護職従事6カ月で20万円、1年後に20万円、2年で20万円の計60万円を支給する「介護士志願者支援金事業」を実施している。

看護師、ケアマネージャー、管理栄養士などの非介護職には「介護職員加算一時金事業」を実施している。野いちご独自で昇給や特別勤務手当割り増し分として1300万円を充てている。

処遇改善事業の効果としては、特に「介護士志願者支援金事業」によって職員のモチベーションの向上が顕著であり、離職減少につ

ながっている。

介護福祉士資格を得るためには「実務者研修」受講料など約13万円が必要となるが「ハイツ野いちご」では受講料に対し3万円が支給されている。

シングルマザーに限った募集は行っていないが人材確保に向け、さらなる処遇改善策を検討したい。



職員を募集している「ハイツ野いちご」

一般質問

落合 俊雄 議員



問 機構改革に対する考え方は

答 時間をかけ取り組みたい

落合 町長は新庁舎移転に伴い機構改革を考えているとのことだが、その内容および定数管理に対する考え方は。
町長 移転に伴う機構改革の基本的な考えとしては令和3年1月に向け、フロアレイアウトを基本に機構の見直しと事務分掌の再編を行い、一定程度安定した段階で現状における課題、移



ワンストップサービスが待たれる窓口業務

転に伴う新たな課題を合わせて更なる機構の見直しを行っていききたい。
定数管理については機構改革と整合性を図る形で次期行革大綱に合わせ計画、策定を考えていきたい。
落合 行政課題はこれから多種多様複雑化していき、人口減少によって減る

ことはない。むしろ過疎地なりのさまざまな課題が浮上することも考えられる。
この際10年、20年後の先を見据えた機構をしっかりと検討すべきではないか。
町長 これまでも現状に即した形での見直しは進めてきた。現在は移転後の町民に対する窓口ニーズに配慮

しながら準備を進めている。機構のあり方は各課から多岐に亘った意見が出てきている。

これを集約しながら今後の機構改革に向けて取り組んでいきたい。

問 マイナンバーカードに対する町の考え方は

答 町広報などで周知

落合 マイナンバーカードの取得が進まない中、国は地方自治体にその向上を図るよう通知がきていると聞くが本町における現状と考え方は。
町長 カード申請は個人が直接行い、最終の交付窓口を町が担うことになっていることからこれまで町としての取り組みは進んでこなかった。また住民側からするとカード取得による優位性が見出せないこともあり、作成に至っていない。取得率は申請中も含めて1割強の状況にある。今後、町広報などでの掲載機会を増やすほか窓口での相談も含め取り組んで行きたい。

一般質問

小松 克也 議員



問 森林伐採と植林の現状は

答 計画的に行っている

小松 森林伐採が多くみられるが、その背景と植林の計画は。

町長 町有林、私有林を含む人工林の面積が2822 ㍏ある内、50年以上経過し利用期を迎えた山林が約543 ㍏あり全体の19%である。町内の伐採と植林は、浜中町森林整備計画および森林経営計画に基づいて、毎年20 ㍏前後を実施してい

る。

小松 林野庁では、外国資本による森林買収に関する調査の結果を公表し、平成28年は全国で29件202 ㍏、そのうち北海道が多くを占め、25件201 ㍏となっているが、浜中町の現状と規制や条例化の実施は。

町長 町内では、外国法人および外国人と思われる者による森林買収の届出はない。

また、森林の買収を規制する条例化は法律上困難である。

問 戦没者追悼式の神事化は

答 全国の自治体で見直しがされた

小松 戦没者追悼式を以前のように神社に戻すこととはできないか。

町長 平成8年まで招魂祭実行委員会が町からの補助を受け開催していたが、政教分離の問題が取り上げられ、国からの取り扱いの通知もあり全国の自治体で見直しがされ、今日に至っている。平成9年から遺族会主催により霧多布神社境内

の中にある忠魂碑参拝。町主催の戦没者追悼式を総合文化センターで行って

いる。政教分離の原則から町が神事として行なう事はできない。



伐採された民有林

一般質問

渡部 貴士 議員



問 地域おこし協力隊の増員は

答 住まいの整備が でき次第検討する

渡部 持続可能な町づくりを進めるためには、地域の担い手となる人材確保が重要な課題である。

地域おこし協力隊は産業団体やNPOへの派遣も一つの手段として考えられるが増員の予定は。

町長 受入れ住宅が不備なのでまだ募集はしていないが、行政の考える産業振興と産業団体などの方策が

一致すれば今後にも増員を検討する。

問 若い世代との 対話の場を

答 対話の環境を 作りたい

渡部 松本町政3期目へ向けた決意の中で「次世代を担う若い世代の期待に沿える町政執行」と表明されている。まち懇をさらに掘り下げて、若者の声を拾い上げる機会を望む。

浜中21世紀プラン会議のようなグループを町長の大号令をもって招集する考えはないか。

町長 これからの産業を支



増員が待たれる地域おこし協力隊

えていくのは20代であり、21世紀プラン会議は農漁業者者に宗教家も加えた若い世代で結成され、今の町づくりにも生かされているように思う。

今後は多くの若い人たちと話しをする機会を持てるような環境を作りたい。

問 観光協会民営化の 考えは

答 役員会に諮っていく

渡部 浜中町の活性化と観光推進の中心となる民間組織が、漁業および商業の衰退、就業や人口減少に対しての打開策の一つとなると

考えている。

観光庁の日本版DMOに登録されれば、国からの支援制度も利用できるもので、商工観光業の発展として観光協会の民営化の考えは。

町長 現時点では協会役員と民営化について検討したことはないが、厚岸道立自然公園が国定化され状況などが変わった際には役員会に諮っていく。

問 目標人口への 具休策は

答 若い世代の 定住促進で

渡部 若者が町を出てしまつて高齢者のみが残り、自分たちの子供が地域に住まなくなつた理由について地域住民が向き合う必要がある。

まちづくり総合計画において2030年の目標人口を4900人としたその具体策は。

町長 管内に先駆けて医療費の無償化や後継者就業交付金制度を実施した経緯から、今後子育て世代への施策などを検討し、若い世代の定住を促進したい。

學 遜 志

霧多布高等学校
令和元年度卒業

川村 兵吾
ひょうご



私は、3年間霧多布高等学校の学校設定科目である「浜中学」とおして、浜中町の課題や新たな浜中町の魅力に気付くだけでなく、この町の発展に繋がる沢山のことを学びました。

1年次には浜中漁業協同組合青年部の方の出前授業やハーゲンダッツジャパン様からの講話など企業や町民の方々からのお話を聴き地元を深く知り、その中で諸課題にも気付くことができました。2年次からは、10個の班に分かれ「酪農、自然環境、教育、漁業、福祉、都市計画、歴史、医療、産業、環境」のテーマに沿い、1年次で学んだことを踏まえて今後の浜中町には

何が必要か、諸課題を解決していくにはどのような対策が必要かを班で調べて議論し、全体で発表し意見交流を行いました。3年次には総合文化センターにおいて報告会を実施し、松本博町長をはじめ町民の皆様が3年間の「浜中学」の成果を発表しました。

特産品である昆布、ハーゲンダッツの材料にもなっている牛乳、また、「ルパン三世」の原作者である故モンキー・パンチ先生の生まれ故郷であることなど浜中町には沢山の魅力があります。私は、これらの浜中町の魅力を道内はもちろん、道外、日本全国、また海外にも発信していくこと

によって、今まで以上にそれぞれの需要が高まり、収入や雇用増加といった地元の活性化にも繋がっていくと考えます。浜中学報告会では羅臼高等学校の方々をお招きし地域の発表交流をしました。このように様々な地域の方に来ていただいたり、自分達から他の地域に行ったりと、この「浜中学」とおして浜中町をもっと知ってほしいと思いました。

いく発想力だけでなく、仲間と協力して知恵を絞ります、協調性、積極性など様々な力を身に付けることができます。それは今後の進路、人生にも必ず役立つものです。今後のさらなる「浜中学」の発展は、そんな力を身に付けた霧多布高生たちがどんどん自分達から外部に向かっていくことによって、ますます大きなものになっていくでしょう。最後に私達の学びにご支援、ご協力いただいた地域の皆様へ深く感謝申し上げます。今後は後輩達に対してそのご支援、ご協力を継続していただけることを願っています。

● 揮毫 書道部3年B組 豊島 愛さん
● 読み方 がくそんし
● 意味 志を謙虚にするのが学問である。



町のピックアップ

霧多布 春の風物詩
「ホッキ桁曳き網漁」

4月撮影

高圧水流を海底に当て、マンガンと呼ばれる大きな熊手のような道具で浅瀬のホッキを掘り起こして採取します。



町のピックアップ(話題)を募集します! この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和2年7月15日です。
ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265

発行 北海道浜中町議会 編集 議会広報公聴常任委員会
〒088-1592 北海道厚岸郡浜中町霧多布東4条1丁目35番地1
0153-62-2220・2265

この議会だよりは再生紙を使っています